

ホームページ <http://www.hakumon-butsuri.com/>

発行所 中央大学白門物理会  
〒112-8551  
東京都文京区春日 1-13-27  
中央大学理工学部  
物理学科準備室  
発行人 杉本 秀彦  
編集長 杉本 守夫  
電話 03-3817-1767  
FAX 03-3817-1792  
e-mail hakumon@phys.chuo-u.ac.jp

中央大学校歌

作詞 石川道雄  
作曲 坂本良隆  
編曲 三木 稔  
一 草のみどりに風薫る  
丘に日映き白門を  
慕い集える若人が  
真理の道にはげみつ  
栄えある歴史を承け伝  
う  
ああ中央 われらが中央  
中央の名よ光あれ  
二 よしや嵐は荒ぶとも  
揺るがぬ意気そよや昂  
春の驕る花ならで  
みのりの秋やめざらむ  
学びの園こそ豊かなれ  
ああ中央 われらが中央  
中央の名よ誉あれ  
三 いざ起て友よ時は今  
胸に血潮の高鳴りや  
湧く歌声も晴れやかに  
自由の天地を駆けゆく  
ああ中央 われらが中央  
中央の名よ栄あれ

研究室訪問  
快適な音環境で生活を豊かに  
快音設計をめざす戸井教授

「音響」というとやや固  
いイメージだが「音」とい  
えば実に幅広いテーマであ  
ろう。音楽、芸術、快音、  
騒音、雑音など身のまわり  
はあらゆる「音」に囲まれ  
ている。中央大学に「音響  
システム」を専門に研究す  
る部門があると聞き、訪ね  
ることにした。理工学部の  
学部案内「中央から世界へ」  
の冊子に乘用车に向かっ  
てなにやら計測をしている写  
真がある。これがあらゆる  
物の音メカニズムを解明・  
研究するチームであり、写  
真中央に映るのが精密機械  
工学科の戸井武司教授であ  
る。

戸井先生は、1989  
年本学大学院を修了、電  
機メーカーに勤務の後、  
1996年本学に着任、以  
来生活の身近にある「音」

にひかれ様々なアプロ  
ーチにより研究を続けておられ  
る。若いときには物の仕組  
みに興味をもち、その後「振  
動」について研究、それが「低  
騒音化」につながり、快音  
の研究に行きついたとのこ  
と。いま精密機械工学科た  
だひとりの中大出身教授と  
いう。

まず先生の研究室をひと  
こで表してくださいとお  
願います。「音のメカニズ  
ム解明によって快適な音環  
境を作ります」とのアンサー  
があった。ではその研究室  
とはどんなところなのだろ  
うか。

実験室に、なんとガウ  
ディが設計したサグラダ・  
ファミリアの鐘を数値シミュ  
レーションに基づいて試作  
したものが鎮座する。な  
ぜこれがここに？ また、  
2007年に  
はサグラダ・  
ファミリアで  
名高いスペイ  
ンのガウディ作  
品である「グ  
エル別邸」の  
龍の門に、外  
観はそのまま  
にして内側  
形状の変更  
によって心地よ  
い音を再現し  
た鐘を設置し  
ている。  
四方の壁が  
くさび形状の

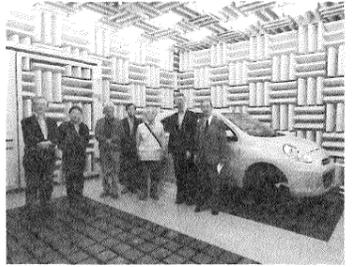
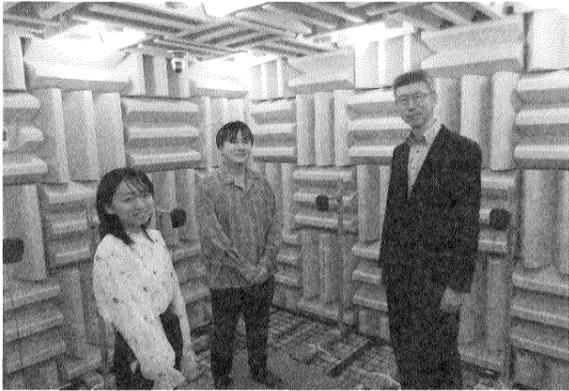
実験室は「無響室」と呼ば  
れ、字のとおり吸音材によ  
って外の音が入らず、部屋中  
の音が響かない構造になっ  
ている。部屋のなかには複  
数のスピーカーを設置、場  
所によって音が変わる音場  
制御実験が行われる。別  
の無響室にはドライビング  
シミュレーターで、エンジン音  
やモーター音を再現し、加速  
感やシフトレバーの操作感  
を創生している。

1階の巨大な「半無響室」  
になんと乘用车、国内の大  
学では最大の規模という。  
車室内の音場制御実験をお  
こない、また振動、騒音の  
実験をすることによって音  
が運転操作に与える影響を  
把握している。車のなか  
には16個のスピーカーが設置  
され、席ごとに違った音が  
再生できる。

これからは電気自動車の  
時代、この研究環境もまた  
変わってゆくことが考えら  
れよう。  
ある実験室ではポンプの  
動作音が聞こえてきた。新  
たな周波数を付加すること  
によって音の印象が変わる。  
これによって聞き心地が変  
わり、協和感に影響してく  
るといふ。

人間の体・脳にも研究の  
対象は向かう。「脳血流」  
を用いた研究が行われ、快  
適で集中できる音環境を目  
指している。「アプローブ」と  
呼ばれる装置を頭につけて

音の響かない実験室「無響室」での戸井先生と研究生：  
この部屋は床にも吸音材を施してある。



半無響室で戸井先生とともに

観測する研究は知的生産性  
の向上をめざすものである。  
今話題のドローンの安全性  
を考え、音響センサーを利用  
した衝突回避技術を提案し  
たり、騒音の抑制や接近音  
の認識などに活用しようと  
している。  
音のメカニズムを解明す  
ることによって快適な音環  
境へ導く。「うるさいもの」  
をおさえるだけではだめ、  
快適性がなければと力説さ  
れた。昔ならば音の研究は  
「静かに」させることであ  
り、今は「快適な音・スマー  
トサウンド」が目標になる  
のかと感じた。

また「快音」は耳だけで  
受けるのではなく、視覚も  
重要である。視覚、聴覚、  
触覚などの複合刺激の下で  
の印象を考慮した快音設計  
が大切である。そして究極  
の課題として「快音」とは  
何か、つながらう。以前  
は快音という概念は認知さ  
れていないものではなかった。  
「静かさ」を求めることは  
決して「無音」ではなく「快  
い音」でなければと感じた。  
新しい概念に「スマートサ  
ウンドスペース」の言葉が  
ある。環境に新たな付加価  
値を付ける機能性音響空間  
のことである。技術だけが  
進んでいってはだめで、耳  
で感じるものだから「人」

を中心にもないといけない。  
現物による実験だけでは  
ない。さまざまな実験のデー  
タをコンピュータ上で解析  
場合によっては次なる音を  
も予測する。このような基  
礎実験をもとにして、生活  
に身近なもの「快音化」  
を目指していく。たとえば  
掃除機、トイレの洗浄音、  
エアコンの動作音など。必  
要に応じて技術力の高い企  
業との共同研究による産学  
連携も行われている。本来  
なら「不要な音」も環境や  
その使用状況によっては「効  
果音」とでも呼んでよいも  
のがある。カメラの  
シャッター音やオートバイの  
走行音など、マニアにとっ  
てはたまらない「ひびき」  
であろう。

「研究室の概要」には「音  
を評価する人の感性を考慮  
することも重要」とうたわ  
れている。技術だけ進めて  
もだめ、聞く人によって音  
は違うもの。ということも  
大きな課題だ。  
当然のことながら数々の  
受賞もされている。  
2022年7月に戸井先生  
が日本機械学会研究業績  
賞を受賞されたが、数多く  
の賞を共同研究員、院生の  
みなさんが受賞されている。  
数多くの学生や院生は「快  
音化」のキーワードの中に  
各自興味のあるテーマを選  
び研究をすすめていく。戸  
井研究室のチームメンバー  
の切磋琢磨する「音」が聞  
こえるようだ。その中での  
相乗効果によって快適な音  
環境が我々の心、そして生  
活が豊かになることを祈り、  
ペンを置きたい。

(清水 正)

余白

EUを牽引する民主主義  
国ドイツでクーデター計画が  
発覚しました。国家転覆を狙  
い、連邦議会襲撃を準備して  
いたと言います。主導したの  
は貴族の家系の子孫です。メ  
ンバーには、元軍人や裁判官  
がいました。彼らは「影の国  
家」にドイツが支配されてい  
ると考え、それを打破するに  
は、19世紀後半のドイツ第二  
帝国への回帰が必要だとい  
う虚構の物語を盲信していたよ  
うです。

プーチン露大統領が命令  
したウクライナ侵攻の背景に  
も、似たような虚構の物語が  
あるようです。プーチン氏は  
ウクライナ侵攻の前年に長文  
の論文を発表しています。そ  
こでは、ウクライナを小ロシ  
アとして併合した18世紀のロ  
シア皇帝エカテリーナ2世の  
時代こそ本来のロシアである  
と主張しています。彼とその  
側近は帝国主義国家再建と  
いう虚構の物語を実践しよう  
と、ウクライナ侵攻を始めた  
のです。

米国ではトランプ氏がア  
メリカを再び偉大で輝かしい  
国にする。を標語に大統領に  
なりました。二期目の大統領  
選挙では敗れますが、選挙の  
敗北を認めず、不正により選  
挙が盗まれたとの物語を広め  
ます。この根拠のない陰謀論  
に焚きつけられたトランプ支  
持者は連邦議会議事堂を襲  
撃します。この事件の背景に  
は、過去の良き時代への回帰  
こそが現状の打開となるとい  
う根拠のない虚構の物語があ  
ります。

（プライン大学のユヴァル・ハ  
ラリ教授は、著書「サビエン  
ス全史」で我々ホモ・サピエ  
ンスが地球上で絶対的な力  
を持つようになったのは、約  
7万年前に起こった脳の進化  
によって、現実には存在しな  
い虚構の物語を作り、伝え  
それを信じていることができる能  
力を獲得したためである、と  
述べています。この能力によ  
り、歴大な数の見知らぬ人同  
士が効果的に協力できるよう  
になったのです。確かに、  
部族や国家は、神話や宗教と  
いった虚構の物語を共有する  
ことによって成り立っています。

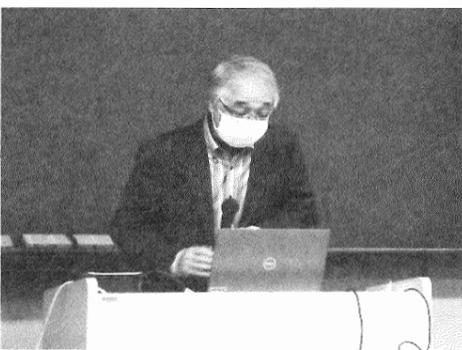
この方法を使うと、人々の  
行動や協力の仕方は、虚構の  
物語を別のものに置き換えれ  
ば、遺伝子の変化を待たずに  
変えることができます。ですが  
ら、物語の変更によって、た  
ちどころに新しい現実に対応で  
きる体制を整えることができ  
ません。これは大きな利点です。  
しかし、この方式は、両刃  
の剣でもあります。共有した  
新しい物語が集団に不利益を  
与えることが起こり得るので  
す。インターネットで結ばれ  
た現代社会では、物語は瞬く  
うちに広がります。そのため  
に、デマやフェイクの情報  
が十分な吟味無しに、共有さ  
れ、信じられてしまったりス  
トクが引き起こした事象が、ド  
イツで起こったクーデター騒  
ぎ、ロシアのウクライナ侵攻  
そして米国の連邦議会襲撃で  
あると見ることが出来ます。  
過去には、信じてる者は救わ  
れましたが、今は迂闊に信じ  
ると奈落の底に落とされてし  
まう時代です。  
語られる物語には、くれぐ  
れも注意が必要です。

# 第25回白門物理学会総会

第39期 田中 宏

外出や交遊を自粛し、可能な限り自宅に滞在して：まだか、まだこの状態が続くのか：と非常に長く感じましたが、いざ時が過ぎてみると単調な日々だったためか逆に短かった様に感じています。感嘆して不思議ですね。

しかしながら3年、されど3年です。白門物理学会も残念ながら第23回、第24回が休会となりました。今回は懇親会を行えない状態での開催になりましたが、継続して同窓の皆さんと集える総会が開催できた事に感謝するより他ありません。朝降っていた雨はいつの間にか止み、太陽の光が見え隠れする2022年11月26日、第25回白門物理学会総会が執り行われました。



報告する杉本会長

本総会は23名の方にご出席頂き、司会は第4期の杉本会長。議長は不肖ながら私自身が務めさせて頂きました。内容といたしまして2019年度から2021年度の事業報告、2021年度の会計報告、また2022年度の事業計画と予算案が提案されました。予算案は事務経費の年額を5000円から7000円に変更する提案（振込手数料増加に伴う措置）がされ、事業計画とあわせて承認されました。また役員改選年ではないため全役員が留任となりました。引き続き大変なお仕事だと存じますが、よろしくお願いたします。

さて、穏やかな雰囲気で行われた総会の後は、司会を杉本会長から第40期の照井副会長に交代して講演会が開催されました！  
ご講演者は東京大学医科学研究所附属病院准教授の大田泰徳先生。題目は『第一部・医学の歴史、第二部・ウイルスとわたしたち』です。第23回の総会企画の際は、仮に開催できる場合は新型コロナウイルスについて知見をご教授頂ければとご依頼して快諾を頂いたものの、敢え無い事態となってしまうと。それから2年越しとなってしまう中、本講演もご快諾頂きました事をこの場

を借りて改めて感謝申し上げます。

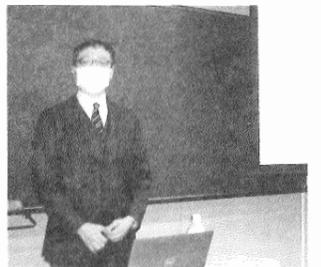
ご登壇されて一目、ちよっとビックリしたのは胸板の厚さです。昔のCMじゃないですが脱いだら凄そうな気配を感じました。

：話が脱線してしまいました。紹介からスタート。東京大学理Ⅲ類で学問に励まれ卒業された後、病理診断や医学研究の分野でご活躍されています。昨年1年間で診断した病理診断の件数はなんと約4万件だそうです。1日あたり100件以上の診断数です。診断用の画像も拝見させて頂いたのですが、素人目にはどこが病変なのかすら分からないものでした。積み上げれば境地といえるのか、医学の世界も本当に凄世界ですね。

また『必須アミノ酸は本当に必須なのか？』という先生ご自身の論文をテーマに頂いたお話は、まず疑ってみる物理の研究概念も類似するとても共感もてる内容でした。そんな様々な研究の末に先生が導き出した健康の秘訣は『昔から身体に良いと言われるものは、大抵は本当に身体に良い』。現在もビタミンCをしつかり取って筋トレ（なるほど！それですか！）に励まれているそうです。



出席者を待つ受付



講演された大田先生

その後病気の定義や医学の歴史のお話が続きます。いままでの病理解剖医の危険さについてお話の際、現代の病理解剖のお話と合わせて先生の強い志が垣間見える場面がありました。ご自身も依頼があれば病理解剖を行っているそうです。『病原が分からない状態を持ち込まれる検体。』死の危険を孕む大変なお仕事です。

第二部は人類にとって脅威になった様々なウイルスや自己免疫疾患についてご教授頂きました。先生がご一緒に共同研究された『胚芽腫に対する改変ヘルペスウイルス投与による治療法』は苦節な10年の時を経て、いよいよ医療の最前線に登場する段階に入ったそうです！これからの活躍もぜひ楽しみにしたいですね。

最後に一つだけ個人的に残念だった事があります。冒頭でも懇親会が行えない旨を申し上げましたが、総会にご出席頂いた面識のない皆様とほとんどお話する事が叶いませんでした。次回状況が許すようであれば、皆様で欲談できる機会も設けられればと考えております。またお時間が許すようであればぜひ一緒にさせていただきます。

## こうらくえん ②

### 伊勢屋質店

文京区本郷の菊坂一帯は古くは菊畑が広がる地であり、「たけくらべ」や「こりえ」などの作品で名高い作家樋口大祐ゆかりの土地である。生涯に16か所に居住した中の旧宅の跡地や終焉の地もこの近くであり、18歳の明治23年に移り住んだこの土地には24歳で亡くなる2年前までの約3年間を暮らした。

一葉は父や兄の死去後、生活の窮乏を救うための手段として質屋通いを繰り返した。その日記にも「この夜、伊せ屋がもとにはしる」などの記述が何か所にも見ることができ。

ところで「質屋」の言葉も最近聞くことがなくなってきた。人々の暮らしが良くなったという理由だけではなく、「金融機関」として質屋の形態による役割が低くなってきたためだろう。借主が品物を預けることで融資を受ける質屋は1960年ころには全国に2万軒以上あったのが、2019年の調査では2800軒に減っているそうだ。

「伊勢屋質店」は永瀬家が万延元年（1860年）に創業、昭和57年（1982年）に廃業するまでの120年間、4代に渡って暖簾を守り、庶民の生活を支えてきた。

ちなみに万延元年とはあの桜田門外の変が起きた年である。建物は廃業後文京区の指定有形文化財となり、平成27年に跡見学園が取得、「菊坂跡見塾」としてゼミ活動や地域交流活動が行われている。跡見学園は質屋の研究も続け、その成果の一部は見学者に配られるパンフレット「旧伊勢屋質店」に詳しく記述されている。菊坂通りにただ一つ残された歴史的な建物の特徴は江戸時代の町屋であり、出格子、出桁造り、屋根瓦・鬼瓦などを有し、質屋としての商売上の特色（防犯や利用者が目立たぬような作り）をもっている。土蔵は明治20



年に足立区鹿浜から移築されたものであり、2階は非公開だが座敷や奉公人の住室となっている。

跡見学園の皆様や近隣の皆様、そして数多くの見学者の皆様によって未永く大切に残しておきたい建物である。

（清水 正）

## 第3回理工ホームカミングデー

第41期 菅原 泰晴

2022年10月29日に第3回理工ホームカミングデーが後楽園キャンパスで開催されました。

第一部では、校歌演奏のあと、主催者として梅田和昇理工学部長が挨拶されました。挨拶では、理工ホームカミングデー開催の趣旨をはじめ、後楽園キャンパス、茗荷谷キャンパス、市ヶ谷田町キャンパス、駿河台記念館といった都心の各キャンパスの近況、駅伝、野球、相撲など中央大学のスポーツ界での活躍の報告と紹介がされました。記念講演では工業化学科卒業生の杉田八郎先生が「アリセ

プト開発秘話」という演題でお話しされました。先生の生い立ちから、株式会社エーザイでの研究開発、世界初のアルツハイマー型認知症抑制薬の開発、「製薬分野でのノーベル賞」といわれる英国ガリアン賞受賞時の思い出、現在開発中の新薬のお話（認知症患者が少ないインド人の食事に比較的多く含まれる「クミン」にヒントを得ているそうです）、人生の教訓など、とても密度の濃い講演でした。講演後は、新薬の認可に関する質問、国からの助成金の話、認知症になりにくくするためにどうすれば良いか（先生は、「適度

な運動」、「ポリフェノールを摂ると答えていました）など、多くの質問が出ていました。

第二部では、まず親子二代の理工学部卒業生の表彰が行われました。次にたくみ同窓会による「たくみ会（理工学部10学部同窓会連絡協議会）に期待すること」というテーマでパネルディスカッションが行われました。各学科同窓会から推薦された8名の卒業生がパネラーとして、中央大学理工学部の手計太一教授（卒業生）がファシリターとして登壇しました（白門物理会からは菅原が登壇）。パネルディスカッションでは、各学科同窓会での困



正門前の案内板

# 深井研究室同窓会を終えて

第35期 山本 宗一  
田中 将角

同窓会は、きつかけが無  
いとなかなか実現しないも  
のです。今回の企画は、昨  
年度、真鍋淑郎氏がノーベ  
ル物理学賞を受賞したこと  
に端を発しています。深井  
先生はご退職後も第一線で  
さまざまな研究活動をされ  
ており、私は先生の新しい  
著書が出版されるたびにそ

れを読ませていただくこと  
で、「最新の気候科学と地  
球温暖化」や「水素分子の  
生理作用と医療応用の可能  
性」について学んでいまし  
た。私は先生の著書の中に  
真鍋淑郎氏がどのような研  
究を行ったのかを詳細に書  
かれていたことを思い出  
し、マスコミの報道に違和  
感を覚えました。そこで、  
10年ぶりに先生とお会い

したいと思い、  
メールをした  
のです。

記録を見る  
とたった数日  
なのですが、  
返信が届くま  
では先生が健  
康を書して居  
られるのでは  
ないかと心配  
でした。でも  
返信には数え  
で88歳の米寿  
になられたこ  
とや真鍋氏の  
ノーベル賞受

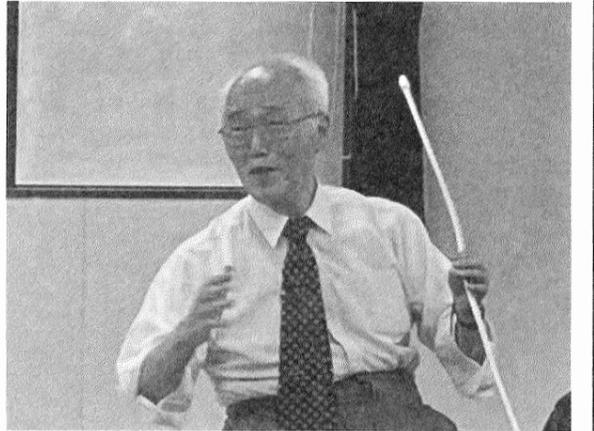
賞について触れられてい  
て、安心しました。そこで  
田中と一緒に深井先生宅を  
訪問し、今回の同窓会を企  
画することになったので  
す。

会は前回と同様、第一部  
を講演会(演題は「脱炭素」  
は国を滅ぼす—気候科学は  
寒冷化を予測する)、第二  
部を懇親会とする2部構成  
にしました。

同窓会当日、第一部の講  
演会はいつも通り学会のよ  
うな雰囲気を出していま  
した。深井先生はこの会  
のために、36枚のスライド  
をパワーポイントで用意さ  
れ、さらにそれを2回手直  
しして準備されていまし  
た。いつものことですが、  
講演に手を抜かない先生の  
姿勢に頭が下がりました。

なかなか講演の内容を紙  
面でお伝えするのは難しい  
のですが、簡単にまとめる  
と、以下ようになります。

1. CO<sub>2</sub>温暖化の「科学」  
と温暖化防止の政治・経済  
「地球温暖化」騒動は、



講演される深井先生

IPCC(国連・気候変  
動に関する政府間パネル)  
が「温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)  
の増加が地球温暖化の原因  
になっている」という仮説  
を繰り返して主張したこと  
で引き起こされた。それに  
関して毎年開催されている  
COP会議で決められた合  
意内容、世界各国の思惑、  
温暖化ビジネス、利権と政  
治化、自称「科学者」によ  
るデータの改ざんや都合の  
よいもののみを取り入れる  
所業など、特に日本が背負  
わされた不当なCO<sub>2</sub>削減  
目標。

2. 気候変動の「(えせ)  
科学」から科学へ  
最新の気候科学の成果に  
よると、気候変動は主に自  
然要因—太陽活動に伴う宇  
宙線の強度と、極渦(両極  
を取り巻く大規模な大気構  
造・2014年に命名され  
た)の変化によるもので、  
人為的要因(CO<sub>2</sub>)の寄  
与はこれに比べると小さ  
い。これらの変化を取り入  
れて深井・杉本氏が数値計  
算した結果(本邦初公開)

は今までの実測値をよく再  
現することができ、さらに  
今後の気温変化については  
2040年までは寒冷化  
し、その後もIPCCが主  
張するほどの気温上昇は予  
測されないことになった。

3. その他  
・深井先生と地球科学との  
関わり・中大では金属―  
水素系の研究をしていた  
が、他大学の人間と協力  
して地球科学の研究も  
行ってきた。永いこと、  
2足のワラジを履いてい  
たことになる。

・昨年度のノーベル物理  
学賞「複雑物理系の理  
解への画期的貢献」に  
受賞者3名(真鍋  
Hasselmann、  
Parisii)の研究内  
容と物理学への貢献の  
批判的な評価について  
根本的な疑問・気候変  
動は計算で予測できる  
のか?—多変数・非線  
形連立微分方程式は不  
安定解をもつ—ことは  
E.N.Lorenzによ  
って1961年に発見  
され、「カオス」と名付  
けられた。気候現象がカ  
オス性をもつことで、長  
期間にわたる予測計算は  
原理的にできないのかも  
知れない。計算だけに頼  
るのではなく観測結果に  
もとづく予測をすべきで  
ある。

先生の2015年の著  
書「地球はもう温暖化して  
いない」の内容に最新の気  
候科学の進歩、国際政治や  
会議の動向、ノーベル賞の  
ことが加わり、非常に内容  
の濃い2時間にわたる講演  
会でした。その後、参加者

全員の記念撮影を行いました。  
残念ながら、コロナ禍  
と深井先生が高齢で懇親  
会参加が厳しいことを考慮  
して、第二部の懇親会を全  
体で行うことは取り止めに  
して、講演会終了後、会場  
の5135教室内で深井先  
生を交えて談話を行いました。  
久しぶりということも  
あり、教室内のあちこちに  
参加者が集まって旧交を温  
める様子が見られました。  
先生の前には、ぜひともお  
話したいという参加者の長  
蛇の列ができていました。  
改めて、先生の人徳の深さ  
を感じました。(有志で行っ  
た懇親会には20名もの方々  
に参加していただき、盛会  
でした。ありがとうございました。

同窓会から2週間後の6  
月12日(日)、深井先生宅  
に田中とお邪魔しました。  
ご馳走をいただきながら、  
様々なお話をしました。そ  
の中で、本邦初公開の深井・  
杉本氏の計算の背景を知る  
ことができました。

深井・杉本氏の計算は、  
まず観測結果の物理的考察  
によって気候変動の要因を  
太陽活動、極渦、CO<sub>2</sub>の  
3個に絞り込んで、それで  
これまでの観測結果が再現  
できることを確認した上で  
将来予測をしているのに対  
して、真鍋氏に始まる気  
候モデル計算では、気候  
の時間変化を表す一群の  
微分方程式を設定(仮定)  
し、それを解くことである  
時点(1850年頃)からの  
気候変化を追跡するので  
すが、太陽や極渦などの自  
然要因を全く考慮しておら

ず、人為的なCO<sub>2</sub>排出を  
主な変動要因と仮定してし  
まったので、数式に含まれ  
る多くの(30個くらい)の  
パラメタを如何にいじって  
みても(チューニング)こ  
れまでの観測値を再現する  
ことができません、それで将来  
を予測するのは無意味とい  
うことになるのです。スー  
パーコンピュータで何カ月  
もかかる計算をしても、物  
理が間違っているは何もな  
らないということですね。  
深井先生ならではの心構え  
をお話しいたいて、改め  
て本質を見抜く「科学の眼」  
について考えさせられまし  
た。

今回の同窓会の冒頭、参  
加いただいた皆様に「前回  
から12年の歳月が経ってし  
まい、非常に後悔しており  
ます」というお話をさせて  
いただきました。それは、  
同窓会の案内をお送りした  
ときに、渡辺健次先生が  
2021年(令和3年)5  
月に逝去されていたことが  
娘さんからのご丁寧な返信

で判明したことや、他にも  
多くの深井研ゆかりの方々  
が亡くなっていたことが分  
かったからです。もつと早  
く同窓会を企画していれば  
お会いできた方々が多数い  
らっしゃった筈でした。そ  
こで2年後、深井先生が90  
歳卒寿を迎えられる記念に  
同窓会を企画することを宣  
言しました。きつとお元氣  
で、変わらず第一線で研究  
活動を続けていらつしやる  
ことでしょう。

最後に、2017年に退  
職され現在は白門物理学会の  
三代目会長に就任されてい  
る杉本先生をはじめ、教室  
を手配して下さった脇田先  
生、連絡を載せて下さった  
白門物理学会のホームペー  
ジ担当の倉繁正和様、また講  
演の生ライブ配信を行う  
べく準備を進めてくれた  
ICTに明るい田中将角君  
など、たくさんの方々のご  
尽力によって今回の同窓会  
が実現できましたことを厚  
く御礼申し上げます。

(山本 記)



講演会が行われている会場の様子

### 走った・登った・飛んだ

第一期 篠田 彬

萬八十歳を迎えました。ご一読、笑止下されば幸いです。

#### 一、「走った」(輪行)

暑さの残る九月十二日友人三人と私が住む埼玉県大宮より横浜みらい都市まで70数kmを自転車で行きました。急ぐ旅でもなし13時に大宮を出発し旧中山道を一路日本橋を目指して、ヘタルを漕ぎました。埼玉・東京の県界荒川の戸田橋を渡り都内へ、巣鴨・白山・東大前



両神山山頂(ニッカボッカに鳥打帽超レトロ)

を走り日本橋へ、コーヒーを飲んで一休み。銀座通り東海道を南下、大森・蒲田と進み六郷橋で多摩川を渡って神奈川県へ入ります。一般国道を走行するため路肩に停車中の車を避けつつ後方に注意を払っての走行でした。生麦・東神奈川、ゴールが近づいてきました。19時横浜みなとみらいランドマークタワー到着です。後は横浜中華街でビールで乾杯をして関内駅より京浜東北線にて大宮への一日でした。

#### 二、「登った」



輪行日本橋で一休み

6月・10月に秩父にある岩峰二座(二子山・両神山)に登りました。どちらも二度三度と登っていますが50年も前のことです。二子山(1165m)はロッククライミングのゲレンデでスリリングな高度感のある稜線です。近年のクライミングブームが登山専門店に引率された登山客が8名ほど訪れていました。頂上直下の岩場は上級者コースと一般コースがありますが当然一般者ルートを取りました。

両神山(1723m)は日本百名山の二つで切り立つ

た特異な山谷で知られていません。以前には無かった新道を4時間掛かって登り切りしました。今では麓までマイカーでいけますが山への取りつきの深さで定評だった奥秩父「日本百名山」の著者「深田久弥」はどのようにこままで来たのかと思いを馳せる一日でした。

#### 三、「飛んだ」

30数年間続けているパラグライダーでの飛行、今でも月2・3回筑波山系で飛行を続けています。12月にはバースデーフライトを楽しんできました。さて、いつか翼を休めようか思案中です。



パラグライダーを背負ってさあ飛ぶぞ!

### 渡辺健次先生との思い出

第35期 山本 宗一

渡辺先生は深井研究室所属の専任実験講師として47年の長きにわたって物理学科の学生実験や深井研究室員の指導にご尽力され、2007年3月に定年退職されました。

「何か実験機材の関係で困ったら渡辺先生のところへ行け」と言われたほど高い技術力と広範な知識を持った先生で、特に修士課程の時には様々な面で助けていただきました。いつも頭から

被るタイプの老眼鏡がトレードマークで細かい作業をこなす、独特な語り口で煙草と

お酒が大好きでした。私が行くと、缶コーヒーを奮っていただきよく1号館の3階廊下の灰皿のところまで2人で喫煙しながら相談に乗ってくださいました。

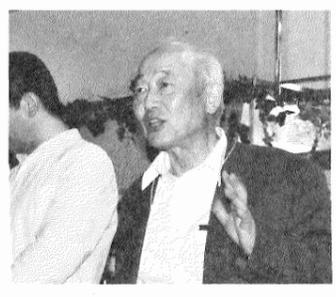
圧延機・ねじ切り・圧着端子の使い方。アーク溶接で熱電対の接合。旋盤のバイトの研ぎ方(このとき、炭素の含有量を火花の飛び方が異なることを知りました)。実験とモノづくりの楽しさを教えていただきました。

今でも現役のスタッフや院生の間で開催していることかと思いますが、学生実験の助手をやっていた私や他の院

生をよく飲み会に誘っていたことも良い思い出です。皆様、もう退職されましたが、専任実験講師の齋藤・岩崎・高橋先生にもよく奢っていただきました。酒が進んでくると、必ず出てきた四方山話。1つ目は、

学生実験で教えた俳優の阿部寛さんが本学電気電子工学科の出身で、ノノモデルのころに女子学生の取り巻きが凄かった話。2つ目は、2年生の物理実験1で銅酸化

物超伝導体を焼成し、1年生の基礎物理実験でそれを用いて超伝導について学ぶという、学生実験のカリキュラムが話題になり取材がきたものの、あと一歩で他大学に



先を越されて悔しかった話。まだまだありますが、書ききれません。渡辺先生が亡くなったという知らせが届いたとき、真先に思い出したのがこの飲み会でした。

「またあの時のメンバーで飲みたいな」と思ってもそれはもう叶いません。渡辺先生のご冥福をお祈りいたします。

### 計報

物理学科の実験講師を47年間務められ、2007年3月に定年を迎えられた渡辺健次先生が2021年5月に逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### 会費納入について(お願い)

会員の皆様には白門物理会の活動にご協力を頂き厚くお礼申し上げます。今後も継続して活動を続けることができるよう、引き続き会費納入を宜しくお願い致します。

#### ①直接納入

「総会」「白門物理の集い」等に出席の際、会計担当が承ります。

#### ②郵便局からの振込み

振込手数料を白門物理会が負担する払込取扱票をお送りしますのでご利用ください。会が負担する振込手数料は、窓口では203円かかりますがATMだと152円と51円少なくて済みますので、ATMからの振り込みにご協力をお願い致します。

#### ③銀行からの振込み

三菱UFJ銀行 久米川支店(店番 231) 口座番号: 0691988(普通預金) 名前: 白門物理会 会費は会則により年間3千円となっています。尚、3万円を一括納入されたときは「終身会員」となり、以後の会費が免除されます。

### 編一集一後一記

相変わらずコロナウイルスの感染は収まりを見せませんが、その毒性が当初より弱まってきていることもあり、社会活動は以前の状態に戻りつつあります。白門物理会も2022年11月に定期総会を3年ぶりに開催しました。今号では、その総会についても記事にして参加されなかった皆様にも会の近況をお伝えしています。これも会報の発行を11月から1月に変えたことにより可能となったもので、短い時間で原稿をお願いした皆様には改めてお礼申し上げます。 総会は25回目の開催となり、会の発足から四半世紀を過ぎたこととなります。会報も当初の年2回発行や発行できなかった年があったものの近年は毎年1回の発行を続けており、今回も第25号として

発行することができました。これも会員の皆様のご支援とご協力によるものと感謝しております。

大学では新1号館の建設工事が始まっています。物理学科が移ることになる新しい建物がどのようなのか楽しみです。

#### 【編集委員】

- 委員長 8期 齊藤 守夫 委員 会長 杉本 秀彦 1期 篠田 彬 4期 佐々木文三 5期 宮内 良子 7期 鈴木 立夫 7期 中村 裕介 8期 倉繁 正和 13期 飯島 章男 18期 吉川 秀雄 27期 脇田 順一 39期 田中 宏 40期 照井雄一朗 41期 菅原 泰晴 編集顧問 清水 正(法学部卒)

## 会計報告

### 2021年度会計報告

期間: 2021年10月1日~2022年9月30日

	(予 算)	(決 算)
収入の部	1,750,943	1,905,243
会費	0	0
終身会員会費 (0名)		
通常会員会費 (12名)	30000	36,000
雑収入	0	148,300
寄付、利息等		
繰越金	1,720,943	1,720,943
支出の部	325,000	154,139
総会費	60,000	0
謝礼等		
会報費	100,000	88,000
印刷費		
通信費	100,000	56,296
案内状送料等		
企画補助	50,000	3,523
H P、講師謝礼等		
備品費	5,000	0
ゴム印等		
消耗品費	5,000	0
事務用品等		
事務経費	5,000	6,320
振込手数料他		
残高の部	1,425,943	1,751,104

会 費: (通常会員) 荻原和弘(17期)、磯目基嗣(11期)、和田直人(5期) 阿部寛(19期)、須賀博志(14期)、井原太一(15期)、亀井泰明(7期) 本村克美(11期)、杉田正行(7期)、水上公一(7期)、福田好朗(6期) 丞村宏(11期) 雑 収 入: 幹事会・懇親会等からの寄付、利息及び個人寄付 松本精夫(2期)、長利哲治(8期)、鈴木次仁(6期)、井原太一(15期) 和田直人(5期)、影山昌秀(15期)、丞村宏(11期)、水見昭(1期) 年報費(6期)、水上公一(7期) (終身会員の方の会費納入を寄付とさせていただきます) 大島智晃(20期)、田口和美(7期)、年報費(6期)、若林学(1期) (以上敬称略) 黒沢先生の奥様から 50,000円の寄付をいただきました。 総 会 費: 謝礼 会 報 費: 500部 (株) クリード 通 信 費: 総会案内、会報送付、白門物理の案内 企 画 補 助: H P 事 務 経 費: 振込手数料など 会 計 河内麻起子 (第11期)

### 2021年度会計監査報告

- ①監査執行日 2022年10月11日 ②監査項目及びその状況 帳簿、証ひょう類、現金、預貯金とも正確である。 ③その他事項はありません。 会計監事 倉繁正和 (第8期) 会計監事 菅原泰晴 (第41期)

### 2022年度予算

期間: 2022年10月1日~2023年9月30日

	(予 算)
収入の部	1,781,104
会費	0
終身会員会費	
通常会員会費	10名 30,000
雑収入	0
寄付、利息等	
繰越金	1,751,104
支出の部	327,000
総会費	60,000
謝礼等	
会報費	100,000
印刷費等	
通信費	100,000
案内状送料等	
企画補助	50,000
H P、講師謝礼等	
備品費	5,000
ゴム印等	
消耗品費	5,000
事務用品等	
事務経費	7,000
振込手数料等	
残高の部	1,454,104

会 計 河内麻起子 (第11期)